

片上首席交渉官による記者会見の概要

日時：平成29年5月3日（水）15：00～15：10

場所：トロント

（片上首席）

昨日と本日、二日間にわたって、準備会合が行われました。今回の会合では、今月ハノイで開催されるTPP閣僚会合に向けた準備のため、TPPに係る各国の国内状況、あるいは、TPPで合意した、ハイスタンダードなルールを実現するためにどのようなことができるか、これらについて、率直な意見交換を行いました。各国の状況や立場が様々である中で、建設的な議論ができたと考えています。

私の方からは、ハノイ会合は、TPPの今後の方向性を議論する上で重要な会合であり、11カ国がハノイで結束してTPPの方向性を打ち出す必要がある旨発言し、積極的に議論を主導いたしました。

全体会合、あるいは、各国とのバイの会談を通じて、各国ともTPPの意義を踏まえて、モメンタムを失わないよう議論を前に進める必要があること、これについては共通の思いがありました。また、日本のイニシアティブを期待している国も多いと感じたところです。

今回の会合の結果を石原大臣に報告するとともに、今後とも、我が国が持つ求心力を生かしながら、各国と緊密に連携し、ハノイ会合に向けた準備を進めていきたいと考えています。

（記者）

今日の二日目の会合では、どういったことが話し合われたのでしょうか。

（片上首席）

昨日と本日、双方ですが、メインの課題はTPP閣僚会合、これに向けて、TPPで合意したハイスタンダードなルールを実現するためにどのようなことができるか、そういった点について、各国と率直な意見交換を行ったところです。

（記者）

今回の大きなテーマとして米国抜きでTPPの発効をどのようにするかということがあったかと思うが、これについては、日本からの意見、または、各国からはどのような意見がありましたでしょうか。

（片上首席）

繰り返しになりますけれども、今度の閣僚会合に向けて、TPPで合意したハイスタンダードなルールを実現するためにどのようなことができるか、各国間で率直に意見交換したというのが今回の会合の性格です。ご案内のとおり、今回の会合は事務レベルの準備会合です。したがって物事を最終的に打ち出すのは次回の閣僚会合ということになると思っております。

（記者）

ハイスタンダードなルールを実現するという点については11カ国で合意できたのか。

(片上首席)

そこは11か国で齟齬はないと考えていただいて構わないと思います。

(記者)

TPP11と我々が言っているようなものは、そのための手段という認識でよろしかったでしょうか。

(片上首席)

さきほど申し上げたように、今回の会合は準備会合です。したがって、具体的な方向性も含めて打ち出すのは閣僚会合になります。そして、閣僚会合でまさにご質問のあったような点も含めて今後の方向性について議論されることになると思います。今回の準備会合の結果を各国とも持ち帰って、ハノイ会合までの間に引き続き調整をすることになると思います。ただ、議論の詳細な中身については、各国との関係もあって、そこは申し上げることができないという状況ではあります。

(記者)

11か国が結束して取り組むことを目的にしたと思いますが、それについては、今回の会合ではどのようにになりましたでしょうか。

(片上首席)

先ほども申し上げたように、11か国の間で、TPPの意義も踏まえて、このモメンタムを失わない、そのために議論を前に進めていこうということについてはコンセンサスがあったと思っております。実際にどのような形で持っていくかということについては、今回のまさに準備会合の結果を持ち帰って、閣僚会合までの間に調整したうえで、閣僚会合で閣僚のレベルでの判断が行われるということかと思っております。

(記者)

今回の会合の中で、ハノイに向けての例えばドラフト案などの議論はありましたでしょうか。

(片上首席)

私が申し上げられるのは、ハノイ会合では、さきほど申し上げたとおりですが、今後の方向性について議論することになると思います。引き続き今回の準備会合の結果を各国が持ち帰って、引き続き調整することになると思います。したがって、ご質問については、現時点で私の方から予断を持ってお答えすることは差し控えたいと思います。

(記者)

日本政府として今回の会合で期待したとおりの成果を得られたと思いますか。

(片上首席)

大変建設的な会合だったと思っていますし、冒頭申し上げたとおり、各国とのバイの会談や全体会合を通じて、TPPの意義を踏まえたモメンタムを失わないよう議論を前に進める必要があるということについては共通の思いがあったと実感しております。

(記者)

APEC貿易大臣会合以降のスケジュール感について、11月には首脳会合があるということで、そこまでには首席交渉官会合があるのかもしれないと思いますが、そこらへんについてはどのような議論がありましたでしょうか。

(片上首席)

議論はいろいろあったと申し上げてよいと思いますが、今後実際にどういう段取りでどのように進めていくかは、まさに次の閣僚会合の場で議論されることになると思います。

(記者)

協議の中で、11か国から数を減らすですとか、自分は協議から降りたいという意向を示した国はあったのでしょうか。

(片上首席) 個別の国がどのようなことを言ったのかは会合の性格上申し上げられません。ただ、抽象的になって恐縮ですが、TPPで合意したハイスタンダードなルールを実現するためにどのようなことができるか、そういうことについて、各国間で率直な意見交換を行ったということでもあります。

(記者)

11か国という枠組みでの結束は図られたということによろしかったでしょうか。

(片上首席)

11か国で、TPPの意義を踏まえてモメンタムを失わないよう議論を前に進めようというのは共通の認識があったと思っております。それを踏まえて、実際にどう今後のTPPの方向性を打ち出していくか、これはまさに閣僚会合で行われることです。現時点ではさきほど申し上げたように準備会合ですから、あくまでも事務レベルの準備会合という位置づけになろうかと思っております。

(記者)

今回予定されていた午後のセッションが早めに終わったことについてはどのように考えればよろしいでしょうか。

(片上首席)

非常に効率的かつ建設的な議論ができたと思っております。

(記者)

もう論点は詰めるところは詰めたということでしょうか。

(片上首席)

そういうことです。

(記者)

物別れということではないということでしょうか。

(片上首席)

全然そのようなことはありません。他の首席交渉官が出てくるところもご覧になったと思いますが、非常によい雰囲気、建設的な会合であったと思います。

(記者)

閣僚会合まで調整、やりとりは続くということになりますでしょうか。

(片上首席)

調整は引き続き行っていきます。

(記者)

予断は持てないところであると思いますが、ハノイではそれなりに具体的な道筋、手法について閣僚声明なりで出てくると理解をしてよろしいでしょうか。

(片上首席)

そこについては、恐縮ですが、事務レベルの準備会合という性格上、予断を持ってお答えできません。ただし、さきほどの繰り返しになりますが、ハノイ会合では、まさに閣僚レベルで今後の方向性について議論するということになると思いますので、実際に閣僚レベルの会合で物事が決まっていくと考えてよろしいかと思えます。

以上